

RCC スクール

「#湯崎知事と語ってみた」 in 東広島

とき 令和4年6月9日（木）

ところ 東広島市立美術館

目次頁

開会	2
自己紹介	2
ひろしまビジョン説明	4
意見交換①（賀茂高校・西条農業高校・総合技術高校・賀茂北高校）	5
意見交換②（賀茂北高校・賀茂高校・総合技術高校・西条農業高校）	7
閉会	15

開 会

- 司 会： それではお待ちしました。「RCC スクール 湯崎知事と語ってみた」 supported by 田宮パーツ。
十分な拍手ありがとうございます。
湯崎知事とともに県内の高校生と本音で今と未来について語ろうという「湯崎知事と語ってみた」 supported by 田宮パーツということなのですが、司会を務めさせていただきます、RCC アナウンサーの坂上俊次です。よろしくお願いします。
そして今日も駆け付けてくださいました、湯崎英彦知事です。よろしくお願いします。
- 湯崎知事： よろしくをお願いします。
- 司 会： 知事、前回もあったのですが、どうですか広島の高校生の熱気とか、前回触れ合って何か感じたこといかがでしたか。
- 湯崎知事： やっぱ皆さん楽しいですよ。若いっていいなって、つくづく思う感じがします。
- 司 会： 知事、今回さらにキャラが立っておりますので。
- 湯崎知事： みんなが？
- 司 会： 皆さん、結構いいキャラされていますので。

自己紹介

- 司 会： ハードルを上げておいて自己紹介いきたいと思うのですが、せっかくなのでお名前と学校名とプラスして、今年楽しみにしていること、これも含めて自己紹介していただきたいと思います。
まずは早速ですが、総合技術高校。あれっ高校生の方ですよ。森本さん自己紹介お願いします。
- 森 本： 森本竣亮、総合技術高等学校2年生です。
今年楽しみになことですが、明日が総高祭という学校での催しがあって、そこで僕は、あじの三枚おろしの実演をするので、それが楽しみです。
- 司 会： いわば学園祭で、今日は練習はされたのですか。
- 森 本： 練習、今日も学校ですて、複数人でやるのですが、それで今日も練習しました。
- 司 会： 指とかにおってみたりは、どうですか。
- 森 本： すごく洗いました。
- 司 会： それでは森本さん、よろしくお願いします。
続きまして、西条農業の神谷さん。
- 神 谷： 西条農業高校、畜産科3年の神谷華です。よろしくお願いします。
今年楽しみにことは、進路が決まったら親に旅行に連れて行ってもらえるので、あわよくば海外に連れて行ってもらおうと思っています。
よろしくお願いします。
- 司 会： ひょっとしたらお父さん、お母さんも見ているかもしれませんので、行きたいところは、どこをリクエストしておきますか。
- 神 谷： ハワイかオーストラリア。
- 司 会： よろしくをお願いします。
続きまして、賀茂高校からお二人ということでお願いします。
- 奥 山： こんにちは、賀茂高校出身の奥山愛理です。2年生です。
私が今年の夏楽しみにことは、賀茂高校が龍王小学校の夏祭りに一緒に参加することになって、賀茂校生も射的という屋台を出して、地域貢献ということで皆さんと一緒に夏祭りに参加するのがすごく楽しみです。お願いします。
- 司 会： よろしくをお願いします。
続いて三宅さんです。
- 三 宅： こんにちは、同じく賀茂高校出身の三宅夏妃です。2年生です。
今年は楽しみとは少し違うかもしれないのですが、今年の夏に平和学習バスということで、参加者ではなくガイドとして参加させていただくことに、とてもワクワクしています。
- 司 会： 先ほど打ち合わせでは、あるアーティストのチケットが取れたと喜んでいたじゃないですか。自慢しておいてくださいよ。
- 三 宅： 失礼します。米津玄師さんというアーティストがいらっしゃるのですが、その人のラ

イブに10月の上旬に行かせていただくことになりました。とても楽しみです。

司 会： おめでとうございます。
次、賀茂北高校の二人です。お願いします。

川 本： 賀茂北高校の3年生の川本汐登です。
今年楽しみにしていることは学園祭です。高校に入ってから、コロナの影響でしっかりとした学園祭は行っていなかったもので、とても楽しみにしています。

司 会： よろしくお願いします。
次、藤田さん。

藤 田： 賀茂北高校3年の藤田幸志です。現在、生徒会長をしています。
僕が今年楽しみにしていることは体育大会です。僕はどちらかというと運動がすごく得意で好きなので、体育大会でしっかり活躍して楽しみたいと思います。よろしくお願いします。

司 会： よろしくお願いします。
実は賀茂北高校のお二人はバレー部だということで、川本さんリベロ。話題もうまく拾ってください。よろしくお願いします。
そして今回は、スペシャルサポーターとしまして、STU48 峯吉愛梨沙さんにお越しいただきました。よろしくお願いします。

峯 吉： STU48の峯吉愛梨沙です。高校3年生です。よろしくお願いします。

司 会： まずは意気込みを、いかがですか。

峯 吉： 意気込み、そうですね。県知事と高校生の皆さんと広島について語っていくことなんて全然ないので、すごく緊張しているんですが、今日は頑張りたいと思います。

司 会： それではせっかくなので峯吉さんも、今年楽しみにしていることを1つお願いします。

峯 吉： 私の楽しみにしていることは、バリバリ宣伝になるのですが、7月10日に広島グリーンアリーナで、STU48は5周年コンサートをさせていただくことになっているので、ぜひ見に来てください。よろしくお願いします。

司 会： 5周年おめでとうございます。
湯崎知事いかがでしたか、結構、個性派ぞろいだったと思うのですが。

湯崎知事： 確かにキャラ立っていますね。一番立っているのは坂上さん。

司 会： 私はちょっと引いておかないといけませんね。
改めて今回の主旨ですが、湯崎知事と高校生でいろいろと語り合っていて、広島は今とか未来について考えていこうというものです。
それで御覧いただいている方ありがとうございます。この映像はRCC公式アプリIRAWでも配信中です。ぜひ御覧いただきたいと思います。
それでは湯崎知事にもお話を伺いたいのですが、聞くところによると、東京で岸田総理に、触れてもいいですかね。どういうお話をしてくられたんですか。

湯崎知事： 今日は、松井広島市長と池田商工会議所会頭と、G7の広島開催が決まりましたので、そのお礼を総理のところに行ってまいりました。

司 会： 何か岸田総理、広島のこととか話になりましたか。

湯崎知事： もちろん。我々からは県民の皆さん市民の皆さん、とても決まって喜んでいるということと、それから被爆地で行われるので、被爆の実像に触れていただく機会を持っていたきたいということをお願いしたのですが、総理も今のこのウクライナで戦争があるようなときだからこそ、広島で開催することは非常に意義があるということをおっしゃっていただいて、我々も本当に世界的に意味のあるサミットになることを期待しているところです。今年ではないですが、来年の楽しみです。

司 会： そうですね。早速、緊張感でますよね。すごい話題だなと。
峯吉さんどうですか。サミットということで、広島にますます誇りが持てると思うのですが。

峯 吉： そうですね、広島のことをすごく広めてくださっているんで、私もグループとして頑張っていきたいなと思いました。

司 会： ありがとうございます。
それでは広島のことを、もっと知ってもらおうということで、湯崎知事から御挨拶と、そして広島ビジョンの概要を皆さんに知ってもらおうということで、こちら知事からお願いしたいと思います。

広島ビジョン

湯崎知事： 改めまして、皆さんこんにちは。今日はこうやって参加いただいて、本当にありがとうございます。

今日はまず始める前に、この広島の未来というか、行政がどんなふうな広島の未来を描こうとしているかということ、簡単に説明をさせていただきたいと思います。

この広島ビジョンというのは、10年後の広島のありたい姿を描いているのですが、10年後というと、皆さん今から自分の年齢に10。我々は10足してもあまり変わらないですが、皆さん10足したら相当変わるじゃないですか。きっと社会人になって、活躍をしている頃だと思うのです。

ただ10年後って、今から取り組んでいかないと目指す10年後には届かないので、それを聞いていただいて、後それをベースに意見交換できればと思うのです。

まず未来の話をする前に、今どうなのかということなのですが、こういうふうにいるいろいろな社会的な、あるいは経済的な環境の変化が起きていますし、今後も進んでいくと思っています。本当に時代が動くのは早いので、どうなっていくかというのは見通すのは難しいのですが、それでもそうはいっても、バトンを皆さんに渡していかなければいけないので、どんな姿になるのかということを定めているわけです。

基本理念としては、「広島に生まれ・育ち・住み・働いて良かった」と心から思える広島県の実現ということなのですが、目指す姿というのは、県民の一人一人が「安心」の土台と「誇り」を持って、そして夢や希望に「挑戦」できる。そういう環境ですね。

これちょっとサブタイトルが書いてあるのですが、仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれの欲張りなライフスタイルの実現ということで、それぞれの希望が、それぞれの地域でかなっていくことを目指そうとしています。

そのためには、まず今いろいろな不安がありますよね。それを安心につなげていくというか、それを軽減して安心を作っていくというのがまずあると思います。その上で広島県にはいろいろな自然だとか、あるいは産業だとか技術だとか、あるいは歴史、素晴らしいものがありますので、やはり誇りになっていくということで、それを高めていきたいと思っています。

「安心」の土台があって、「誇り」が高まっていくと、県民の皆さんがどこに住んでいても夢や希望に「挑戦」できる環境ができてくると思うので、また実際にそれを挑戦してもらおうということができるようになっていきたいと思っています。

こういった「挑戦」へのさらなる一歩というのは、県民の皆さんの働きがいと生きがいとなっていったら、それぞれの地域での活力を生んでいくことになって、それが広島県全体の発展につながっていくのかなと思っています。

「安心・誇り・挑戦」の実現に向けて、広島県いろいろな取組をしているのですが、その中で3つの視点を持って取り組んでいるんです。

まずはデジタルトランスフォーメーション。皆さん聞いたことあると思いますが、DXこれちょっと年齢いった方に言うと、デラックスと言っちゃうという。これはデラックスではなくてデジタルトランスフォーメーションなのです。

ビックデータだとかデジタル技術を活用して社会を豊かに、あるいは便利にしていくというようなものです。あらゆる分野でビジネスモデルだとか文化だとか変えていく力があると思っています。このDXによって、暮らしだとか仕事により充実してことが実感できるような社会を目指していきたいと思っています。

次にひろしまブランドの強化というのがあって、さっき言ったような誇りになるようなもの。いろんな広島県の強みですよね、そういったものをブランドとして認識していくとか認知していくとか、強みを認知していくことがブランドを高めるということなのですが、それによって広島が選ばれ続けるというか、そういったところを目指していきたい。

最後、人材育成ですですが、変化がすごく激しくて不透明で先が見えないという時代にあって、それでも自ら考えて解決策を作って実行できる、そういう人たちを育てていかなければいけないということで、赤ちゃんから大人まで一貫した人材育成を県は進めています。

どんな世の中になっても対応できる、そういう県を目指しています。このビジョン自体、今3つの視点といたしましたが、分野的には17の分野でできていまして、それぞれどんなもの、教育だったらこうとか健康だったらこうとか、食の話もこの中に入っている

わけですが、全部お話しすると 53 時間ぐらいかかるのですが。17 の倍数でもないです。後でこの中で捨てるものは捨てていきたいと思っています。以上です。

ちょっと抽象的ですが、とにかく一番大事なことは、みんなが希望する暮らしとか仕事だとか、そういうことが実現できることが大事なので、それを今の 3 つの視点を柱として作っていきたいということです。

司 会： ありがとうございます。

意見交換①

司 会： そういうふうに広島ビジョンも聞きながらですが、皆さんの意見が聞きたくて、まず 1 つ目のテーマいきたいと思います。

テーマ 1 は、広島での就職または起業や暮らしについて。具体的には将来広島に住みたいとか、広島で働きたいかどうか、知事の前ですが、皆さんマルかバツか書いていただいて、せいのドンで上げていただきたいと思います。

峯吉さんも書いてくださいね。藤田さん、川本さんも書いてくださいね。正直なところでお願いします。森本さんも書いてくださいね。賀茂高校さんがちょっと悩んでいるかな。二人意見が割れたのかな。

それでは、せーので上げていただきたいと思います。せーのドン。

バラエティ豊かになりましたが、まず賀茂高校の奥山さんがバツ。奥山さんバツの理由を言っていたでもいいですか。

奥 山： そうですね、まず広島県は、私はすごく大好きですし誇りも持っています。ですが私自身、いろいろな国に興味があって、将来は自分の視野を広げるためにも、海外で生活してみたいなという思いがありまして、いろいろな世界に行って、1 つの町にとどまるのも、もちろんいいと思うのですが、私はやっぱりいろいろなところに行き、そこでしか学べないことを実際にそこで学んで、そして自分の生活だったり、自分の考え方にも変化があるのかなと思っていて、もちろん広島にもたまに帰ってきたいですし、たまに帰って来ることによって、普段自分が住んでいなかったからこそ気付かなかったこととかあると思うのです。そうしたときに広島の良さを改めて知って、やっぱりいいところだなと思って、そして広島の良さも伝えられたらなと思っています。

司 会： ありがとうございます。

何か前向きな理由のバツだったので、ホッとしたのですが。

同じ学校の三宅さんはマルということで、どうでしょうか。

三 宅： 奥山さんとは真反対なのですが、私は将来、小学校の教師になりたいくて、広島の児童に、広島の魅力を教材とか勉強だけでなく、広島の魅力とか人間性とか、そういうのも一緒に児童に伝えてきたいと思っています。そして児童と一緒に私も、もう一度広島の魅力を探していきたいなと思ったのでマルにしました。

司 会： 分かりました。

西条農業、神谷さんはバツということで、どういったとこなのでしょうか。

神 谷： 今、酪農を勉強しているというのもあって、将来、酪農家になりたいのですが、海外の酪農経営にも興味がありまして、特にアメリカの広大な土地を利用した酪農に興味があるので、将来は海外で酪農をしたいと思っています。

司 会： これ広島の酪農のことにも関わってくる。後ほど知事とたっぷりこのテーマ話したいと思っています。

それで森本シェフは三角ということなのですが、なぜ三角という迷った結果になったのでしょうか。

森 本： 三角の理由は、僕は広島県で自分の店を持ちたいと思っているのですが、広島にはいいところがいっぱいあるので、自分だけ広島で働いて、でもそれだと他の場所には伝わらないじゃないですか。だから他の土地にも行って、広島のいいところも伝えていきたいなという気持ちもあって三角になりました。

司 会： 割と前向きな三角ということで。

続きまして、藤田さんはマルということなのですが。

藤 田： まず大前提として、広島県が住みやすく大好きという気持ちが強いということと、将来スポーツトレーナーになりたいという夢を持っています。

そこで広島県はプロスポーツがとても盛んで、多くのプロチームもありますし、他の県に比べて、スポーツにすごく力を入れていると生活していてすごく感じるので、実際

にプロスポーツチームに携わるような仕事をしたいと思っているのでマルにしました。

司 会： 同じ賀茂北高校の川本さんも、迷わずマルだったのですが、理由とするとどうだったのですか。

川 本： 僕は専門とかではなく就職を選んだのですが、就職をするのは広島が故郷という部分もあるし、県外とか出るとお金も掛かってくるので、将来自分が住んでいく地域に貢献したいと思っているという理由です。

司 会： ありがとうございます。

それで峯吉さんは大きくマルを、高感度高いですね。大きなマルの思いを知事の前でお願いします。

峯 吉： マルを書いたのですが、皆さんこれからの、これになりたいというのを考えていて、私は本当にこれから何をやっていいかわからなくて。

司 会： もうやっているじゃないですか。

峯 吉： すごく尊敬でしかないのですが、私からできることといえば、小さい頃からずっとアイドルになりたいなと思っていて、そのアイドルになりたいなという夢をくれたのも、この広島に住んでいたのがきっかけなんですけど、都会、東京とか大阪とかに行かないとなれないのかなと小さい頃は思っていたのですが、こうして広島を中心に瀬戸内を拠点とした STU48 という 48 グループを作っていただいて、地元で夢をかなえられたことにすごく感謝をしているので、これから先も広島に感謝をしたいなと思うし、たとえ私が STU48 卒業した後も、これからどうなっていくのか近くで見たいなという思いもありますし、もっと広島県のために活動して行って、全国の方に STU48 をもっと広めたいなというのものもあるし、STU になりたいなと思ってくれるような女の子がもっと増えたらいいなと思いました。

司 会： 分かりました。

湯崎知事、2つのポイントで感想をいただきたいのですが。

まず1つが、こういった峯吉さんのように、あるいはプロスポーツ、いろいろな夢がかなう。東京に行かなくてもかなう広島県。このポテンシャルとか、知事どう考えていらっしゃるでしょうか。

湯崎知事： そういう社会を、我々が作っていかなくてはいけないということだと思うのですよね。特にデジタルの時代なので、必ずしも東京に行かなくても、いろいろなことができるということはあるし、それこそアイドルも、昔は全部東京に集中していたかもしれないですが、アイドルではないですが、岡山の歌手フウさん名字が出てこない。

司 会： 藤井風さん。藤井カゼさん。

湯崎知事： フウさんじゃなくてカゼさん。漢字だけで覚えている。

風さんとかも岡山、今東京に移っちゃったけれども、岡山からすごく大人気になったじゃないですか。そういう時代だし、逆に、ちょっとこれ先取りしているかもしれないですが、他の世界を見てみたいというのは、その場に行かなければ分からないこともあるのですよね。だからそれも僕はありだと思うのです。

それでも、そこで広島のことを自慢できるというか、そういう広島であってほしいんじゃないかなと思いますし、そういう広島を作っていきたいと思います。

司 会： まさに広島いいから、ずっと広島でだけじゃなくて、前回もそうなのですが、知事は広島の良さを知った上で学んで来たり、いろいろと感じて来ることはすごくいいことだと、知事もいろいろと経験されていますが、県外に出て学ぶこととか、国の外に出て学ぶこととか増えた視点とかいかがですか。

湯崎知事： 今、多様性とかダイバーシティとかいわれますが、何で多様性が必要かというところ、いろいろな考え方を集めたほうが、より良いものができるということなのですね。みんな同じ経験とか同じ考えだと、広がりがなくなってしまうわけですが、いろいろな経験とかいろいろな考えを持っている人が集まれば、新しいアイデアが生まれやすい。それが多様なわけですね。

自分の中の多様性というのもあって、これは広島県外に出てもできるし、もちろん県内でもできることなのですが、いろいろな経験を積むことによって、自分の中の引出しが増えていくことは、とても人生を豊かにしてくれるし、新しいものを生んでいく力になっていくと思います。

司 会： ありがとうございます。

それでは答えにくいところもあったと思うのですが、神谷さんのペケは、後ほどたっぷり酪農について語りますので、知事、覚悟のほどよろしくをお願いします。

ありがとうございます。いったん下げてください。

意見交換②

司 会： ここからは、皆さんにいろいろな話題提供いただきたいと思うのですが、逆に我々、勉強させてください。
まずは賀茂北高校の藤田幸志さんお願いします。

参加者①

藤 田： 僕たち賀茂北高校では、学校の総合的な探究の時間という授業を使い、地元企業とか協力をして町おこしを行っています。今日はその活動について発表をさせていただきます。

まず、町おこしについて発表をさせていただくのですが、賀茂北高校のある豊栄町周辺は、過疎化と少子高齢化がとて進んでいる地域です。人口減少もとても進んでいる状況です。そこで賀茂北高校の生徒に何かできることはないのかと話し合った結果、地元企業と協力し町おこしをすることを考えました。

そして昨年度、学校のすぐ近くにある地元企業、トムミルクファームさんという牧場と協力し、新商品のラベル作成を賀茂北高校の生徒がさせていただくことになりました。本日は実際に賀茂北生徒が考え、作成したラベルが貼られている商品をお持ちいたしましたので、ラベルにも注目してぜひ試食してみてください。

司 会： ありがとうございます。持ってきてくださったんですか。このイベント初の物が出てくるという。ラベルも二人がデザインされた？

峯吉さん感想、どうですか。

峯 吉： すごいです、本格的。牛ですよ。牛の柄がハートですよ。

司 会： 知事、どうですか。

湯 崎 知 事： 本当だハートだ。かわいいですね。かわいいですねというか、これはお二人が考えたんですか。

司 会： 川本さん、これはお二人が考えたんですか。

川 本： いえ、自分たちの1個上の先輩たちが考えた。

湯 崎 知 事： でもこういうラベルって、すごく影響大ですよ。おいしそう、かわいい。

司 会： そうですよ、印象が全然変わりますものね、柔らかい感じで。

試食していいということなので、食に詳しい森本さん食レポをお願いします。

食といえば森本さんですよ。森本さん食べてみてもらっていいですか。皆さんも食べてもらって。

お味の感想いかがでしょうか。

森 本： 食感がソフトでミルクの味もして、このミルクの味にレーズンとかベリー系の味も口の中に残って濃厚な感じで、食べていてすごくおいしいなという。

司 会： ガチな食レポで、もう他の人感想言えないというぐらい。

藤田さんどうですか、こういう活動やってみていかがだったですか。

藤 田： 実際にトムミルクファームさんでも商品を発売させていただいて、考えたのは先輩方なのですが、自分たちの通う生徒が作成したラベルが商品として売られていて、それも実際に発売されて、買われる方がいらっしゃったりという話を聞いたときに、すごくうれしく思いますし、これからも町おこしというのは、いろいろとたくさんできることがあると思うので、どんどん継続してやっていきたいという思いがあります。

司 会： 何かすごくいい話題だなと思うのですが、これを踏まえて湯崎知事に聞いてみたいこととか、話し合いたいことっていったら、どんなことですか。

藤 田： ここで質問させていただきます。

僕は豊栄町に住んでいて、川本くんは志和町に住んでいるのですが、中山間地域の観光業であったり産業であったりが、多少遅れているのではないかと生活をしていてすごく感じます。

そこで観光や産業などの振興業として、知事がお考えになられていることがありましたら、ぜひ教えていただきたいです。お願いします。

湯 崎 知 事： つい食べるのに…

司 会： 知事、完食されたようですね。

湯崎知事： ちょっとまだ残っている、でもほとんど完食しそうです。

中山間地域って、実はすごくたくさん宝物があるじゃないですか。昔ながらの家があったりもちろん自然があったり、豊栄も今、古い家を改装して若い人が戻ってきたりという動きもあると思うのですが、そういう宝を大事にしていくことが、すごく大事だと思うのです。

ないものをねだっていくことよりも、あるいは違うものになろうとするよりも、持っているものとかあるものを、それを磨いていくことが、特に次の時代の観光とかに求められることだと思っています。

観光客も、特に海外の観光客も東京に行ってみたくて、ディズニーランドに行ってみたくて、そういうのはあるかもしれませんが、1回見たら大体終わりというか、これもまた例に出すと現地の知事に怒られますが、例えば富士山とかきれいだと思って見たら、また何十回も行く、中にはいますけどね。そうなっちゃうんだけど、そこでどんな暮らしだろうとか、深く知ることによって何度も来てみたいとか、本当の価値を理解してもらえとか、そういうことにつながっていくと思うので、今そういう観光のトレンドにあると思いますから、持っているものを大事にして磨いていって、それをみんなと共有していく。今そういう方向にあるかなと思います。

だから豊栄、本当にすてきなところなので、ぜひ大事にしてほしいと思います。

司会： 藤田さん、我々もあのエリアも行ったって、いろいろと牧場があったりして、きれいだな、実はこういうところいいんだよという、もうワンプッシュ教えてください。

藤田： もちろん人口は少なかったり、マイナス面もたくさんあるかもしれないですが、地域の人数が少ないことによって、地域の方同士で仲が良かったり、先ほどもお話に出たのですが、古民家を改装して、実際に若い方だったり豊栄に住んでみたいという方が気軽に移住できるようなサポートも実際にされていて、豊栄町内でも、町をおこすために活動されている方が、たくさんいらっしゃるので、賀茂北高校の生徒が中心となって町おこしができるように、僕たちの代もそうですが、後輩たちにつないでいけたらいいなと思っています。

湯崎知事： ぜひ何が宝だろうというのをみんなの目で探して、それを磨いてほしいなと思いますね。

藤田： ありがとうございます。

司会： ありがとうございます。

ただ同じく賀茂北の川本さんは、ちょっと問題提起といいますか、もう一つ知事に聞いておきたいということで、話題提供、川本さんからお願いします。

川本： 僕たちは去年、修学旅行で香川県に行ってきました。修学旅行に行った後、香川県と広島県を比較してみました。

香川県が優れている点として1つ目が移住者支援、2つ目が子育て支援、3つ目が人気アニメやキャラクターとのコラボです。この中でも3つ目のコラボについては、身を持って感じました。とても有名なポケモンのキャラクターであるヤドンが、香川県のいろいろな場所にいました。幅広い年代が知るキャラクターとのコラボは、町おこしにもつながると思いました。

そこで知事に質問です。今後、県を全国にPRするためにアニメやキャラクター、映画、ドラマといったものとコラボするアイデアがありますか。

今回、香川と比較してみました。知事として、この県を参考にしているとかあれば教えていただきたいです。

司会： おもしろいですね。

湯崎知事： そうですね、アニメとか映画とかはすごく力を持っていて、広島の場合、1つに決めて全県でやるということはやっていないのですが、例えば竹原だったら、たまゆらだとか、今度ドライブ・マイ・カーとかも世界的に有名になりましたが、そういう映画とかアニメとかを活用して、それぞれの地域がすごく今頑張っているから、実際に聖地巡礼みたいないっぱい広島にも来ているんですよ。それを後押ししていけたらと思っています。

司会： 私、個人的に高校生になったつもりでいいですか。1個だけ思うのは、香川だったらうどん一本勝負的なところがあったり、福井に行くと恐竜、恐竜、恐竜なんですけど、広島って何でもあるので何で押していたっけ、ぜいたくな悩みなんですけど、ありすぎるが上に選択も必要。知事、この辺どうですかね。

湯崎知事： まさにそれがすごく難しいところで、各地に素晴らしいものがたくさんあるし、例え

ば広島とって思いつくものって結構出てくるんですよ。何も言わなくても出てくるものがあって、カーブもそうだし宮島もそうだし、原爆ドームとかお好み焼きとか、もみじまんじゅうとか、他の地域と比べても結構ババババッと出てるんですよ。尾道とかサイクリングとか最近出てくる。

おっしゃるとおり、たくさんあるが故に悩ましいところがあって、それはなかなか解決していない問題なのですが、今の観光の在り方の方向としては、1つのものが、例えば実際に既にあるのですが、宮島とか450万人とかコロナの前には来るわけですね。僕は600万とか行くのではないかと思うのですが。そういうものをたくさん作るというよりは、1万人来るところを100個作ろうと。100万人が来るところを1個作るのではなくて、1万人が来るところを100個作ろうと、そういうどちらかというコンセプトでやっているの、いろいろな人のニーズを満たすようなものが、いろいろとあってもいいのかなと最近ちょっと思っています。

司 会： 4番バッターだけが打つてではなくて1番から9番まで打点、賀茂北からも、どんどん観光資源上げてくださいね。

二人ありがとうございました。

湯崎知事： ありがとうございます。

司 会： 続きまして、徒歩5分ということで来てくれました。東広島から賀茂高校は近いんですね。

賀茂高校、奥山さんお願いします。

参加者②

奥 山： こんにちは、奥山愛理です。賀茂高校から来ました。

私から聞きたいことは、全部で2つありまして、まず1つ目は平和構築核廃絶に向けてできる役割とは何かということについてです。私は平和構築核廃絶に向けてできることとして、まずは学び続けることだと考えています。学び知っているからこそできることがたくさんあると思っています。

その中で私が取り組んできたこととして、「グローバル未来塾 in ひろしま」というものがあります。今から少し皆さんに、私がどのようなことをやってきたのかを説明させていただきます。

私は昨年、「グローバル未来塾 in ひろしま 2021」というものに参加しました。これは広島県の高校生を対象に、国際平和への高い志を持ち、将来国際的に活躍できる人材の輩出を目的に行われているものです。私は実際にここで1年間、仲間20名と一緒に平和について学んできました。

ここでは主に2つに分けられていて、平和、国際平和に関する講義。実際に大学の教授の方や、専門職の方から国際問題に関わるることについて説明をしていただき、知識を深めました。例えば核問題や紛争後の緊急支援、その他NGOなどに関する講義をしていただきました。

そして英語力を高めるために英語演習です。実際に外国の方と一緒に平和に関することや、世界問題について英語で学んだり、意見を言い合ったりして、英語力の向上を高めました。そして、夏に行われた未来塾の中で、まず一番の目的となっていたのは、広島ジュニアインターナショナルフォーラムという取組です。これは世界各国、多くの国、約16カ国の海外の高校生がオンライン上で集まって、平和な世界の実現に向け、私たちができることというテーマを基に、核廃絶や平和構築について、グループに分かれてディスカッションを重ねました。そして各グループで「広島宣言」というものを作りました。

そこで私が皆さんに伝えたいことが2つあって、まず1つは学び続けることです。まずは自分の興味があることは何か、想像してみてください。自分の興味のあること、何でもいいです。私だと核廃絶や平和構築、いろいろな国についての異文化などにも興味があります。まずはそういったことについて積極的に関わってみてください。きっと新しい発見があると思います。

そして2つ目は、答えはそれだけじゃないはず、です。1つの問題があるときに、私たちは答えは1つだと決めつけてしまいがちですが、答えは1つだけではないと思っています。まずは、いろいろな人の意見を聞いて、偏見を持たずに自分の視野を広げていくことが大切だと思っています。世界は1つになっています。今いろいろな出来事が起

こっぴて、とても困惑した状況となっていますが、私たちみんなが1つになって、も
のごとの解決に向けて努力していくことが大切だと考えています。そこで平和構築、核
廃絶に向けて私たちができる役割について、知事はどうお考えかお聞かせください。

司 会： 素晴らしい発表だったのですが知事、平和構築核廃絶に向けてですが、考えはいかがで
すか。

湯 崎 知 事： まずグローバル未来塾だとか、ジュニア国際フォーラムとか、参加をいただいてあり
がとうございます。

何ができるかというのは、本当に学ぶということ、とても大事なことだと思うのです。
学び続けることは大事だと思うし、それと同時に大事なことは、何でもいから自分で
できることをやるという。

いろいろなことがあると思うのですが、署名活動に参加するとかということもあるし、
こういう未来塾に参加するというのもその1つだと思いますし、何かこれから進学をす
るとか、あるいは何か人とのつながりの中でこういったことを話す。友達と話すという
のは、なかなか難しいトピックですが。そういうのを話してみるとか、身の回りです
でできることを、できるだけ多くの方がやるということが、平和につながっていくと思
うのです。

その中でさらに本格的にやっていきたいと思ったら、いろいろな NGO の活動もあるし、
もちろん我々県あるいは国でも、そういった平和に関する行政の取組というのはあるの
で、そういったものに関わるとか、自分のできるところに応じて、実際に手足を動かす
というか、アクションしてみるということかなと思います。

奥 山： ありがとうございます。

まずは自分のできるということに対して、しっかりそれについてまず深めていくこと
が大切だと分かりました。ありがとうございます。

司 会： STU の峯吉さんも、関心してうなずいていましたが、どう思う賀茂高校の奥山さんの姿
を見て。

峯 吉： 同じ高校生だとは思えないくらい、興味を持っていることが大人すぎてびっくりした
のですが、平和といたら、私たちの STU48 の 8 枚目シングルが「花は誰のもの？」と
いう曲があるのですが、その曲が平和についてのメッセージ性が強い曲になっているの
で、私たち自身は曲を通して、平和の大切さを多くの方に知ってもらえたらいいと思
いました。

司 会： 分かりました。

きれいにまとめると、今何を止めるとか私が何ができるというのではなくて、こうや
って話をしたり関心を持ったり、歌にしました、聞いてみました。

知事、こういったにも十分一歩になる。

湯 崎 知 事： まさにそのとおりですね。

歌を通じて平和のメッセージを伝えていくとかもそうですし、平和のメッセージでは
なくても人の心を癒やしていくとか、そういうのって、ギスギスした心が癒やされてい
くと平和につながるじゃないですか、そういうことだと思います。

司 会： これからも、番組のエンディングみたいになっていますが、伝え続けてください。

峯 吉： はい、頑張ります。

司 会： ありがとうございます。

賀茂高校、三宅さんも知事に話したいことがあるということでお願ひします。

三 宅： 私は少し平和とは違う観点なのですが、ジェンダー問題についてお伺ひしたいです。
賀茂高校では、こちらのように今年から制服の選択肢が増えて、男女共に制服のスカ
ートとスラックスの2種類の選択ができるようになりました。

いろいろな高校が、このような制服の選択の種類が増えるということなど、いろい
ろなジェンダーについて取り組んでいます。広島全体ではジェンダーについてどのよ
うに取り組み、また知事はどのような社会になるといいと考えていますか。お教えくだ
さい。

司 会： ジェンダーで。

湯 崎 知 事： 今とてもホットとかいうと、ちょっと古いですね。なんて言ったいのか分
からないですが。旬でもないですが、みんなの関心が高いものだし、高めなければならない
問題だと思うのです。

私らしく自分らしく、そういうことがとても大事なことだと思うので、これまでも男
の子はこうだよとか、女の子はこうだよというふうに、ある意味で型にはめて考えるよ

うなところがあったわけですが、本当は個性それぞれ違うので、その一人一人の個性を大事にしていくということをし、しっかりと作っていかねばならないと思うのです。

そういう意味ではジェンダーもまさにそうで、女の子だからスカートとか、男の子だからズボンとか、最近、男の子でスカート履いている人たちも出てき始めているんですよ。それは別に性的嗜好が違うからスカートをはいているのではなくて、スカートが涼しいからとかね。

司 会： 機能的な部分。

湯崎知事： そう機能的な部分で、性的嗜好でそういう風に装っても、もちろんいいのですが、そうではなくて、自由な発想にだんだんできてきている人たちも増えているので、本当にそうなるといいなと思いますよね。

司 会： 逆に先進的な取組をやっているって、これは選べるようになった賀茂高校の雰囲気、こう変わったよとかもっとこうなればいいとか、三宅さんどう思っていますか。

三 宅： 湯崎知事もおっしゃったように、男性もスカートをはけるようになってきたりとか、女性もスラックスをはけるようにはなったのですが、まだ少人数という感じで、だからもう少し広まっているといたらおかしいかもしれないのですが、スカートやスラックスを選べたりというのがもう少し手軽に、心置きなく選べるようになっていったらと思っています。

司 会： 選択肢はあるけれども、なかなかピックアップするのに周りの目がみたい。

知事、こうやって話題にすることによって、チョイスがあるんだチョイスしてもいいんだとか、風土を変えることも大事ですよ。

湯崎知事： そうですね、だんだんと変わっていくのかなと思うんですよ。それこそ今は選ぶのに意識しないとイケないじゃないですか、それがだんだんと意識しなくなるような時代が来ると思うのですよ。

色の問題もそうだし、こういうスカートだとか男性、女性的な装いもそうだし、いっぺんには変わらないかもしれないですが、皆さんが後輩にバトンを渡していくなかで、だんだんそうなるといいなと思います。

司 会： ありがとうございます。

もっと変わってきたよとかあったら、また教えて下さい。ありがとうございます。

続きまして、総合技術高校、森本さんずっとこの格好で待っていてもらってすみません。森本さん、よろしくお願いします。

参加者③

森 本： 森本竣亮、総合技術高校2年生です。

僕は今、食デザイン科という学科で食について学んでいます。先ほども言ったのですが、将来は広島で自分の店を持ちたいと思っています。

今回聞きたいことなんですが、湯崎知事に聞きたい2つのことという感じで、話を進めていきたいと思っています。まず1つ目が、未来の食について広島が主体となることができることは何かあるかということです。

司 会： それはどういうことですか。

森 本： 未来の食の話題がテレビでもよく出ていると思うのですが、こうやっていろいろな種類で未来の食を解決しようという働きがあると思うのですが、今回僕が押して話したいのが昆虫食というジャンルです。

昆虫食というのは皆さん知っていると思うのですが、蜂の子とかいなごとか虫を食べることなのですが、広島では、「広島こおろぎ」というのが商品としてあって、ピーナッツで育てたこおろぎという。すごくおいしいという話は聞いています。

こういう昆虫食は、皆さん見た目とかで嫌な感じとか思ったりすると思うのです。やっぱりそういうところって、食べている地域もあつたりするのですが、食べていない地域は慣れというか、心の問題だと思うのです。虫って食べるものではない、というのがあるので。

司 会： 僕たちが勝手に決めちゃっている。

森 本： 決めちゃっているのです、ここから食べるという認識にするのは、すごく難しいことだと思うのです。だから見た目を変えるとか、そういう感じで解決という方向に進んでいるのですが、やっぱりそれだけでは広めるというのは難しいです。それなので形を変えて売っているものもあるのですが、まだ少ないです。

だから売り出すのが難しいというのが日本ではあると思うので、こういう食の問題は、日本以外でも、地球上の問題にあたることじゃないですか。だからこういうことはすごく大切だと思って、昆虫食を作っていくのが当たり前になっていく社会が必要だと思うのです。

昆虫食だけで賄えるとは思っていないので、だからそこで知事に聞きたいのが、昆虫食に限らずに、食を未来につなげるために、広島が主体となることができることは何があるかということですか。

司 会： その前に世論調査です。昆虫食、食べたことがないという方、手を挙げてください。

湯 崎 知 事： ないかな。いなごみたいなものとか。今のおおろぎ、最近のものはないけど、昔から。

司 会： いなごのつくだ煮とか我々の世代が食べたのを除くと。

湯 崎 知 事： ないです。

司 会： 川本さんはある？

川 本： そうですね、学校の授業のときに、社会の先生にミルワームを、クラスのみんなに食べてみないかと言われて、それで食べたことがあります。

司 会： 味などいかがだったですか。

川 本： 気持ちが悪いので、ちょっと。小さいのを1つしか食べなかったのですが、味はそんなに、1つなのでしなかったです。

司 会： そうですね。実際に食べるのに、ちょっと抵抗はあるという方。知事まで。

そういった中で、知事にお伺いしたい。こういう食べ物、我々割と抵抗があると世論の結果が出たのですが、それも含めて未来の広島の食なんですけど、どう考えていらっしゃいますか。

湯 崎 知 事： そうですよ。すごく重要な問題を提起してくれていて、今世界的にいわれているのは、特にタンパク源ですよ。

畜産というのは、ものすごくエネルギーを使って資源を使って、しかも牛とかはゲップでメタンを出していて、二酸化炭素の何十倍も温暖化効果があるということで、すごく問題になっていますよね。つまり世界中の人が先進国のように、牛肉とか豚肉を食べるようになったら、とても地球はもちませんという問題があるわけですよ。

昆虫は非常に少ないエネルギーで、高タンパクのものができるということで、そういう意味では真剣に考えなければいけない問題なんだと思います。

それで広島としてどういうことができるかというのは、これはなかなか難しいことでもあると思うのですが、いくつかあるかなと思うのは、1つは広島大学はゲノム編集のすごく有名な先生がいて、大きなチャンスみたいなものがあると思うのです。広島でもゲノム編集の活用というのは、ゲノム編集を活用したより食べやすい昆虫食とか、そういったこともあると思うし、昆虫食だけでなく全体で考えると、1つまず我々が取り組むことができるかなと思うのは、フードロスをなくしていくということですよ。本当に残しちゃうものって、すごく多いじゃないですか。今日、僕これ絶対に食べて帰ります本当に。

そういう何気なく残しているのってすごく多くて、これは大人はもっと問題で、パーティーとかあったら半分ぐらい残ったりして、全部捨てちゃっているわけですよ。本当に農家にも失礼だし、作っているシェフの皆さんにも残念だし。本当はそれがあったら、すごく栄養を取りながら育つことができた、今飢餓に苦しんでいる子どもたちもいるかもしれないので、そういうことを考えたら、まずそういうことができたら持続可能な食を作っていくということもあるかと思えます。

司 会： そんな中、皆さん拍手の準備をお願いします。

森本さんから差入れが届きました。森本さんありがとうございます。

これが何かというのを配っている間に教えてもらっていいですか。

森 本： これは三原プリンプロジェクトというプロジェクトで最優秀賞をいただいて、商品化してもらったプリンです。これはプリン液に酔心のお酒を使っていて、お酒の香りも楽しめて、お酒が苦手な人でも上に乗っているゆずジャムの爽やかな甘さで、苦手な人でも楽しめるものです。

司 会： これはどういったきっかけで。

森 本： 学校で、この三原プリンプロジェクトに食デザイン科というくりで、全員が出させてもらったのですが、その中で僕の作ったこのプリンが採用されて、それで販売という形になりました。

司 会： すごいですね。

- それでは早速、賀茂高校の奥山さん、いい笑顔で食べてくれていますが、お味感想をひと言お願いします。
- 奥山： 本当においしいです。ありがとうございます。いい感じにゆずの味も効いていてプリンとの相性がいいなと思って、プリンにゆずという印象があまりなかったので、すごくおもしろいアイデアだなと思って感動しました。
- 司会： 本当に食レポのレベルが高いですね。
そしてSTUの峯吉さんは、差入れは全部食べないというのがモットーですが、今日どうですか。
- 峯吉： 今日はずごくお腹を空かして来たので、本当にたくさん差入れありがとうございます。すごくうれしいんですが、プリンって下の苦いジャムとかあるじゃないですか普段。あれが私すごく苦手なんです「にがっ」てなって。だからかんきつ系のゆずがすごくおいしい、食べやすいなって思いました。
- 司会： 皆さんおいしかったですか。
おいしかったというところを踏まえて知事にお伝えしたいこと、お願いかもしれませんね。食べていただいている間をお願いします。
- 森本： 小中学生を対象にした料理コンクールを、もっと増やすことができるかという願いです。
- 司会： それでは完食された知事をお願いします。
- 湯崎知事： 本当においしかったですね。学校が三原市にあるので、三原のコンクールにみんなで開催していただいたということだと思うのですが。
今、御存じのとおり大人のシェフ、若手のシェフのコンクールをやっていて、優秀者には、洋食の場合にはフランスの星付きのレストランで、1年とか2年とか修行してもらったり、和食の場合にはどこかに修行に行くという感じではないので、他の国、メキシコとかに派遣して、そこでフェスティバルみたいなものに参加して、和食を提供してもらおうとか、そういう修行的なことをやってもらっているのですが、そこにつながる道として小中学生とか、高校生も含めてかもしれないですが、これは考えてみたいと思います。
- 司会： 知事の頭の中に、ちょっと引っかかったですか。
- 湯崎知事： 結局ずっと育っていくというか、小さい頃から興味を持ってもらうというのは、大切なことなので、そういうきっかけになるといいなとは思いますが。
- 司会： まだ時間掛かるかもしれませんが、そのときは森本さん、超一流の料理人として審査員でこられるように夢をかなえてください。
- 森本： そうなれるように頑張ります。
- 司会： ありがとうございます。そしてごちそうさまでした。
最後に西条農業高校、神谷さん知事と話したいこと、テーマをお願いします。

参加者④

- 神谷： 西条農業高校の神谷華と申します。私は西条農業高校で畜産を専攻して学んでいて、特に牛が好きなので将来は酪農の仕事をしたと思っています。
酪農は牛の管理とか搾乳すごく大変なのですが、こういうプリンとかシリアルバーとか、自分たちの搾った生産した牛乳が、皆さんたち食生活を支えているという意味では、すごく意味のある仕事だと思っていて、すごく簡単な質問になってしまうのですが、知事は農業であったり酪農であったりというのは、経験されたことはありますか。
- 司会： 聞いてみたいですね。
- 湯崎知事： 農業は昔住んでいたアパートの自家農園みたいなのところでネギを、おばあちゃんが育てていたのを収穫したみたいなの。
- 司会： 意外でした。
- 湯崎知事： なかなか農業に直接携わる機会はなかったです。
- 司会： 神谷さんこれだけ広島で酪農とか農業のことを語ってくださりながら、すみません1時間前ですよ、将来広島で働きたいかどうか、バツって出されましたよね。ここちょっと、お話として入ってもらっていいですか。
- 神谷： そうですね、先ほど言ったことと少し重なるのですが、海外で酪農をしたいというのは、海外の広大な土地を利用した放牧に興味があって、広島はどうしても中山間地域が多いので、広大な土地を利用した、私が思い描くような酪農はできる環境が少ないかな

ということで、先ほどはバツを上げさせていただきました。

一方で広島で働くのであれば、スマート農業というのをもっと普及させていきたいなという思いもありまして、少し資料にまとめたので御覧ください。

司 会： お願いします。

神 谷： スマート農業についてですが、現在の農業の課題というのが、高齢化によって農業を続けられない方が増えていたり、後は若い人が農業に関心がないということで、担い手不足が問題になっています。それを解決するためには農業において、省力化であったり人材の確保、作業の簡略化が必要となってきます。

これらを解決するのがスマート農業というもので、農業の現場に IT 技術を投入するものですが、先ほどの技術が解決できるだけでなく、効率的、安定的な生産が可能になります。

実際に西条農業高校の畜産科でも、牛个体ごとにセンサーを取り付けて、歩数であるとか乳量をコンピュータ上で管理して、いついつ発情が来ているねというふうに、これまで以上に管理がしやすくなったというのもありますし、例えば豚であれば豚舎にカメラを取り付けて、生徒のスマホから 24 時間、家畜の様子が見られるであるとか、すごく西条農業でもスマート農業化が進んでいます。

すごくメリットがあるスマート農業ですが同時に課題もありまして、まず 1 つ目が初期投資、維持費が高額ということで、自動運転技術のトラクターなどは 1 台 1,700 万円ぐらいします。さらに高速通信技術を今ない現場に取り入れようと思ったら、維持費も高額になってきます。

解決方法としては、導入後の補助制度も必要になってくるかと思えます。ただお金は無限に湧いてくるわけではないので、必要な補助と不必要な補助の見極めというのも今後大切になってくるかなと思えます。

2 つ目は、農家がデジタルに慣れていないということで、どうしても今の農業のメインの世代は高齢者の方が多くて、デジタルに慣れていないので、広島県全体で講習会を開催したり、デジタルに強い若い世代を増やすことが大切になってくるかなと思えます。それで若い世代を増やすというので、もっと広島の農業高校を取り上げてアピールしてもらって、高校生でも農業に取り組んでいて、こんなに楽しいことがあるんだよというのを広めていく必要があると思えます。

3 つ目は、スマート技術の選択困難ということで、少し難しいのですが、スマート技術は今はずごく開発が進んでいて、いろいろなところで実地試験が行われているのですが、逆にありすぎて土地とか農業形態によっては、使えるものと使えないものが出てくるのです。例えば狭い土地で大型の自動運転技術のトラクターを導入しても、利益が出るかといったら、そうでない部分が大きくて、農家がそれを一つ一つ選んで、これは合う、これは合わないを選択していくのはすごく時間的コストが掛かります。

それではどうしていくかとなったときに、これは提案なのですが、県が農家に代わって、選択、紹介という形を取ればいいなと思えます。県はずごくその土地、例えば広島ですと中山間地域が多いので、中山間地域に見合ったスマート技術を選択して、農家に紹介することで、こんな技術なら使えそうだなというのが、もっと親しみやすくなるかなと思えます。県が IT 分野と農業分野の架け橋になればいいなと思っております。

まとめですが、スマート農業を広めて広島県の農業を活発にしていきたいと思っております。御清聴ありがとうございました。

司 会： ありがとうございます。完全に納得して、そうだと思っちゃったのですが。

知事、広島県もスマート農業やってはいますよね、現状とすると。

湯 崎 知 事： そうですね。今神谷さんが言ってくれたように、地域によって条件が全然違いますよね。

この間、宮城県と福島県に行って来たのですが。宮城県に行くときとひたすら広い、本当にきれいにほ場整備された田んぼが並んでいて、これは同じように勝負はできないと思うわけです。

そういう中でこの広島に合ったスマート農業を今実証していて、今 6 つのプロジェクトが動いているのですが、まさに狭いほ場でどう効率的にやるかとか、あるいはぼどうの生産も広島はだんだんと増えているのですが、農家に取り組んでいらっしゃるのですが、すごく技術いるじゃないですか、スマートグラスを使って、その技術の素人でもカバーできるようにしていくやり方とか、ハウレンソウをやったりとか、そういう広島にある農家さんが使えるようなシステムを開発して、それをまた普及していこうというこ

とを今進めています。

司 会： 世の中いっぱい先に行っているなと思って、いろいろな話題、コオロギもあれば酪農もあったり地域のこともあったりですが、時間迫ってきたのですが、STUの峯吉愛梨沙さん初めて参加されていたのですが、実にいろいろな話題ありましたよ。感じたことどうだったですか。

峯 吉： そうですね、私も広島市出身で東広島に来ることもなくて、酪農も全然経験がなかったのですが、皆さんが作った商品をもっとPRしていくためにも、中山間地域ですか、もっと盛り上げていくためにも、牧場でライブとかどうかと思いました。

司 会： ウェルカム感。代表して神谷さんどうですか。

神 谷： すごい牛とアイドルのコラボっていうのは理想的だなと思います。

司 会： そうでした、打合せのときに言っていましたよね。牛もストレスとか心の状態で全然変わってくるんですよ。

神 谷： そうですね。やっぱりアイドルがいたら、牛もストレスフリーになれるかなと思います。

司 会： 話すもんですね。いろいろなものが生まれますね。神谷さんどうもありがとうございます。

神 谷： ありがとうございます。

司 会： 知事、お時間迫ってきたのですが、どうですかいろいろな新しい発想もあったと思うのですが、今日感じたこといかがだったでしょうか。

湯崎知事： みんな問題意識をすごく持っていて、そこがすごく大事なことだと思うのです。単に受け身じゃなくて、こういうことをこうしたらいいのにとか、どんなことができるだろうとか、そういうことを考えてくれているというのは、とても頼もしく思いました。

司 会： そうですね。本当に素晴らしい発表、話題提供ありがとうございました。せっかくなので知事、最後に高校生の皆さんから学ばせてもいただきましたが、年長者だということで、これから頑張っていく若者にひと言メッセージを最後をお願いします。

湯崎知事： もう今、皆さんそれぞれの道を歩んでいるので、ぜひそれを頑張って進んでいってもらいたいと思います。それをサポートするのが我々大人の役目だと思うし、何かぶつかったら周りの人に相談してもらっていいと思うのですが、これからの未来をこの道を歩んでいって切り開いていってほしいなと思います。

司 会： ありがとうございました。
次は牧場ライブで再開したいと思います。
以上をもちまして、第2回「湯崎知事と語ってみた」supported by 田宮パーツ終了いたします。どうもありがとうございました。